より、そう、ちから。
東北電力

発電所だより 2026年11月号

東北電力㈱女川原子力発電所総務部広報グループ
女川町塚浜字前田1　電話0225-53-3111
2026年11月発行

《女川原子力ＰＲセンター「来館者１３０万人」を達成しました！》



女川原子力ＰＲセンター所長
佐藤　克美

１０月２４日、女川原子力ＰＲセンターでは、１９８３年４月の開館からの延べ来館者数が１３０万人を達成しました。

あらためまして、これまでＰＲセンターにご来館いただいた皆さま、運営にご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

記念すべき１３０万人目の来館者となったのは、ＰＲセンターで開催した農作物の収穫イベント「秋だ、みんなで収穫体験」に参加された東松島市在住の髙橋さんご家族です。

ＰＲセンターでは、日本のエネルギー事情や原子力発電の仕組みをはじめ、女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みや放射線などについて分かりやすく紹介するとともに、季節に合わせてお楽しみいただけるさまざまなイベントを開催しています。

引き続き、多くの方々にお越しいただけるよう、地域の皆さまから親しまれるＰＲセンターを目指していきます。



©i&T

《「秋だ、みんなで収穫体験」を開催しました！》

１０月２４日および２５日、女川原子力ＰＲセンターにおいて、「秋だ、みんなで収穫体験」を開催しました。

イベントには、３６５名の皆さまが参加し、敷地内で育てた「りんご・だいこん・さつまいも」の収穫を楽しんでいただきました。

参加者からは「大きなだいこんを収穫できました！」「今晩のデザートにりんごを食べたいと思います！」といった感想が寄せられました。



１３０万人目の来館者となった
髙橋さんご家族



野菜畑でのだいこん収穫体験



果樹園でのりんご収穫体験

《２０２６年度事業者防災訓練を実施しました》

１０月２２日、原子力災害発生時における対応力の習熟を目的に、２０２６年度事業者防災訓練を実施しました。

今回の訓練には、女川原子力発電所をはじめ、本店および各事業所の社員が参加しました。

訓練は、宮城県内で最大震度６弱の地震が発生した想定の下、シナリオ非提示で行われ、海抜６０ｍの高台にある緊急時対策建屋内に対策本部を設置したほか、女川２号機の原子炉への注水機能が喪失した場合の対応や大容量送水ポンプの設置などの訓練を行いました。

今後もさまざまな事象を想定した訓練を繰り返し行い、原子力災害発生時における対応力の習熟に努めていきます。



事務棟内にある緊急対策室
での初動対応



事務棟から緊急時対策建屋
（左側建物）までの移動



緊急時対策建屋での指揮の様子



保修班による
大容量送水ポンプ設置訓練



総務班による
避難誘導訓練

《女川２号機用の新燃料が女川原子力発電所に到着し、受入検査や保管作業を実施しました》

９月１５日および１０月１４日、女川２号機の今後の定期事業者検査時に取り替える新燃料２２８体が発電所に到着し、発電所原子燃料グループの所員と燃料加工メーカーである原子燃料工業（株）が新燃料の受入検査を行いました。今回、東京港からトレーラーにより陸上輸送された全ての新燃料について、外観検査や寸法検査などにより異常がないことを確認した後、原子炉建屋内の燃料貯蔵施設（新燃料貯蔵庫または使用済燃料プール）で保管し、原子炉へ装荷するまで適切に管理します。

この新燃料の受入検査と保管の様子について写真と動画でご紹介します。



外観検査

外観検査により、新燃料に傷などの異常がないか１本ずつしっかりと確認します。



寸法検査

寸法検査により、新燃料が設計どおり製造されているか確認します。
寸法検査は、専用の器具を用いて慎重に行われます。



チャンネルボックスの取付

検査を終えた新燃料は、チャンネルボックスと呼ばれる角筒状のジルコニウム合金製の部材と組み合わされます。



新燃料貯蔵庫への格納

チャンネルボックスと組み合わされた新燃料は、新燃料貯蔵庫や使用済燃料プールに保管され、燃料装荷まで適切に管理されます。



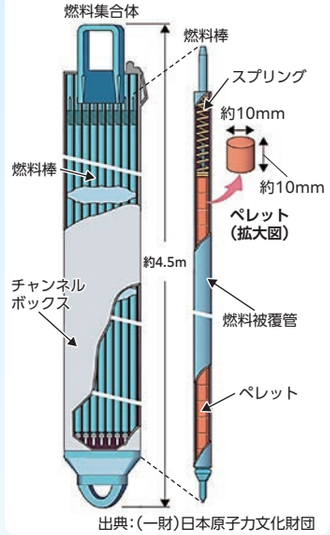
新燃料の受入や保管作業に関して、安全最優先で一つひとつの作業を丁寧に実施しました。

原子燃料グループ 奥担当

受入検査や保管作業の動画はこちらからご覧いただけます。

原子力発電所で使用される原子燃料とは？

沸騰水型炉（ＢＷＲ）の原子燃料イメージ図



出典：（一財）日本原子力文化財団

二酸化ウラン粉末を約１ｃｍの円柱状に焼き固めたペレットを約３５０個納めたものが燃料棒です。

その燃料棒を７２本収納したものが燃料集合体（９×９燃料Ｂ型）です。

燃料集合体はチャンネルボックスと呼ばれる角筒状の部材と組み合わせて原子炉に装荷されます。

《女川２号機における原子炉の計画停止・起動について》

女川２号機のタービン建屋内に設置されている高圧第１給水加熱器※1（Ｂ）水室逃し弁※2から微量の水が排水槽に漏れ出ている事象を踏まえ、１０月１７日から原子炉を計画的に停止しました。その後、当該弁の分解点検および交換を行ったうえで、１０月２６日に原子炉を起動し、１０月２９日に発電を再開しました。

当該弁の点検を実施したところ、弁体と弁座（弁を開閉・密閉する部分）の接触面の一部に浸食が確認されました。

この結果を踏まえ、水が漏えいした原因は、弁体と弁座間に微細な異物がかみ込んだことによりごく僅かな漏えいが生じ、高温・高圧の水が通ることで弁体と弁座が徐々に浸食され、漏えい量が増加したものと推定しています。

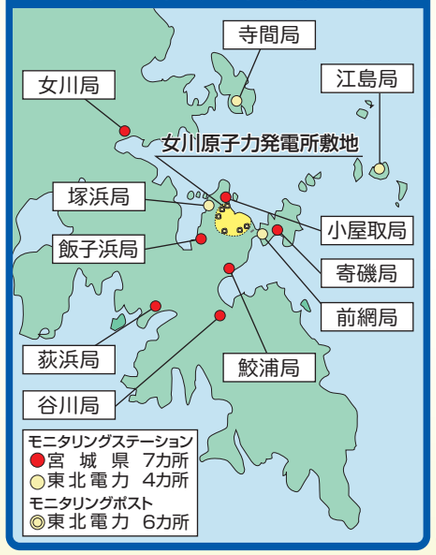
このため、当該弁の取り替えを行い、漏えいが無いことを確認しています。また、今後、異物のかみ込み防止対策を実施していきます。

※１　発電の効率を向上させるため、タービンに供給される蒸気の一部を利用し、原子炉への給水を加熱する設備。
※２　高圧第１給水加熱器内が過圧されることを防ぐ目的で設置されている弁。通常時はばねの力で押さえつけることで全閉状態を維持している。

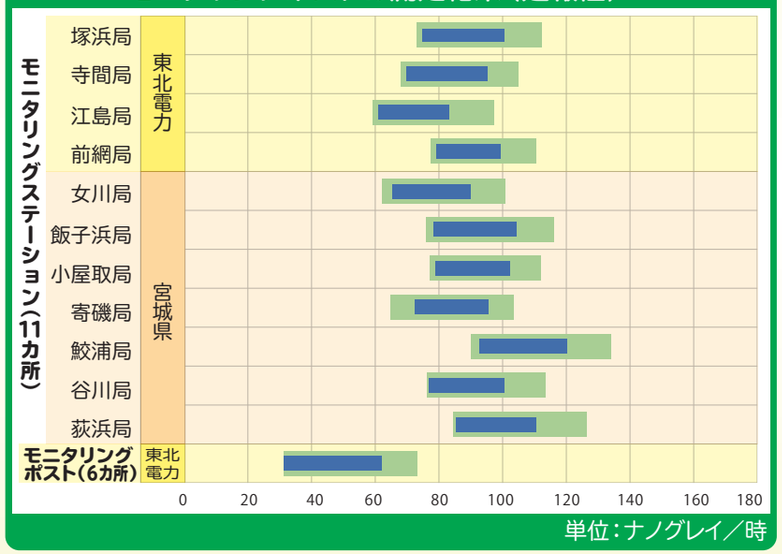
《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※1やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。２０２６年１０月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。

モニタリングステーションとモニタリングポストの設置地点



2026年10月のモニタリングステーションとモニタリングポストの測定結果（速報値）※2



単位：ナノグレイ／時

※１モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
※２モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線（宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線）の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20～40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。

